

あてつまんさく

新見の農業情報

普及だより 2017 年号



新見農業普及指導センター

目 次

1	担い手確保と育成	1
	(1)「新見市営農団地で新規参入者受入始まる」	1
	(2)「水田農業の実践力を高める集落営農研修会」	1
	(3)「省力・低コスト技術の『密播育苗』の実証」	2
	(4)「経営改善のためのステップアップ研修」	3
2	地域特性に合わせた栽培技術	3
	「トマト葉かび病、すすかび病の防除ポイント」	3
3	新品種導入による産地活性化	4
	「もも新品種『岡山PEH7、8号』の実証結果」	4
4	マーケティング戦略の展開	5
	(1)「もものマーケティング活動による産地活性化」	5
	(2)「りんどうの販売促進を目指して」	5
5	農業者の活動支援	6
	「地域農業の活性化を目指して頑張る農業後継者」	6
6	その他	6
	(1)「第11回全国和牛能力共進会宮城大会」	6
	(2)「イチゴのハウスで薪ストーブの効果検証中」	7
	(3)「新見農業士会が市長と意見交換」	8
	(4)「高校生が考案！新しい米粉スイーツの誕生」	8
7	今年輝いた人	9
	(1)平成29年度 岡山県農林漁業功労者表彰	9
	(2)第11回 全国和牛能力共進会宮城大会	9
	(3)平成29年度 岡山県シャインマスカット、 マスカット・オブ・アレキサンドリア共進会	9
	(4)平成29年度 岡山県花き共進会	10
	(5)第72回 岡山県畜産共進会	10
	(6)第56回 岡山県枝肉共進会	10
	(7)平成29年度 新見市ピオーネ共励会	11
	(8)平成29年度 新見市桃共励会	11
	(9)平成29年度 新見市花卉共進会	11

■ 1 担い手確保と育成

(1) 新見市営農団地で新規参入者受入始まる

新見市では昨年度、岡山県の中山間地域総合整備事業でトマトの営農団地と、小規模土地改良事業でブドウの営農団地が整備されました。入植者は原則就農促進トータルサポート事業を活用した新規就農者となっており、新見市をはじめ関係機関が連携して就農相談会等で入植者を募集しています。

トマトの営農団地は、神郷高瀬地区に耕地面積約1.2haで整備され、2～3人が入植可能です。現在1人が入植し、10aで栽培を開始しました。農業実務研修受入農家の橋本澄男農業士をはじめ関係者の指導により、計画を上回る約12t/10aの出荷実績を上げました。

ブドウの営農団地は、豊永宇山地区に耕地面積約1.5haで整備され、3人が入植可能です。

「阿新農協ぶどう部会」、「農業委員」の地元農家を招いてブドウの営農団地ほ場で対策チーム会議を開催し、参加者は、ほ場条件が良いことを確認しました。この会議は、市、農協、普及指導センターの関係機関が連携して、営農団地への就農促進、栽培経営安定を目的に開催しています。

今後、市、普及指導センターの関係機関が連携して、営農団地への就農促進や栽培経営安定を図っていきます。



ブドウの営農団地対策チーム会議

(2) 水田農業の実践力を高める集落営農研修会

新見市内には現在、5つの集落営農法人と19の任意組織があり、地域の水田農業の中心的な担い手になっています。中でも法人は、農地を集めて水稻の作業効率を高め、WC S用イネや和牛放牧、野菜栽培等にも取り組んでいます。

本年度、普及指導センターは集落営農組織の活動支援策の一環として、市、農協と協力し、獣害対策と水稻の省力・低コスト技術をテーマに研修会を開催しました。

関係機関からイノシシ・サル・シカの農作物被害軽減対策について、集落ぐるみで取り組む重要性、防護柵・捕獲に係る補助事業等を説明しました。また、水稻密播疎植栽培の実証成果を報告したほか、ドローン製造メーカーが農業用ドローンの活用と留意点について説明しました。後日、研修会に出席された方から「獣害対策として防護柵を設置し、さらに集落内で野生獣のエサを減らす取組を始めた」との情報提供がありました。

今後も、普及指導センターは集落営農組織の方の意見を伺いながら、関係機関と連携して水田農業の実践力を高める研修会を開催します。



集落営農研修会の様子

（３）省力・低コスト技術の「密播育苗」の実証

１ 背景とねらい

稲作経営では一層の省力・低コスト化が課題となっており、特に育苗・移植は作業時期が集中するため、改善が望まれています。この課題を解決することが期待される「密播育苗」技術を紹介します。

「密播育苗」技術とは、育苗箱１箱当たりの通常の播種量（催芽粃180g）より多く（200～300g程度）播種する技術のことです。メリットとして、①面積当たりの苗箱数削減によるコスト低減、②育苗や運搬に要する労力軽減ができます。専用田植機で植え付けることでさらに苗箱数を減らすことも可能です。普及指導センターでは、平成28年から阿新農協水稻担い手部会、農協、農機具メーカーと連携して実証しています。

２ 実証内容と成果

- ・品種は「コシヒカリ」で、播種量（催芽粃）を「密播育苗」は300g/箱とし、「慣行育苗」180g/箱と比較しました。
- ・「密播育苗」は専用の田植機、「慣行育苗」は既存の田植機を使用し、栽植密度はいずれも13.2株/㎡（43株/坪）で移植しました。
- ・10a 当たり使用苗箱数は「密播育苗」が7.2枚で、「慣行育苗」の13.2枚と比べて５割程度に削減することができました（表１）。
- ・「密播育苗」は初期の茎数がやや劣ったものの、穂数を十分に確保でき、10a 当たり収量は647kgで、「慣行育苗」657kgと大きな差は見られませんでした（表２）。
- ・10a 当たりの育苗にかかる作業時間は、苗箱数削減により「密播育苗」が1.0時間で、「慣行育苗」の2.3時間と比べて５割程度短縮できました。
- ・10a 当たり育苗経費は、「密播育苗」が5,056円で、「慣行育苗」の8,374円と比べて、育苗土や農薬費が節減でき、６割程度に低減できました（表３）。

３ 「密播育苗」の課題と普及の見通し

- ・育苗中の立枯性病害が発生しやすいので、育苗器による出芽と薬剤処理が必要です。
- ・苗質が軟弱徒長傾向となるので、植付本数を増やしたり、田面を均平化することで欠株率を下げる必要があります。
- ・面積当たりの苗箱処理剤の総量が低下するので、本田での病虫害発生の懸念を解消できる薬剤や施用方法の登場が望めます。
- ・実施に当たっては、播種量を一気に増やすのではなく、ほ場や技術レベルに応じて徐々に増やすことで、省力・低コスト化を実現するのが望ましいと考えられます。

表１ 10a 当たり使用苗箱数

区名	10a 当たり 使用苗箱数 (箱/10a)	指数 (慣行区を100 とした場合)
密播育苗	7.2	55
慣行育苗	13.2	100

表２ 生育・収量調査

区名	出穂期 (月/日)	成熟期 (月/日)	穂 数 (本/㎡)	精玄米重 ¹⁾ (kg/10a)	指数 (慣行区を100 とした場合)	倒伏程度
密播育苗	7/29	9/4	415.1	647.4	99	3
慣行育苗	7/25	8/30	375.5	656.9	100	3

1) 1.80mm以上

表３ 育苗経費

区名	10a 当たり 育苗経費 (円)	指数 (慣行区を100 とした場合)	精玄米60kg 当たり 育苗経費 (円)	指数 (慣行区を100 とした場合)
密播育苗	5,056	60	469	61
慣行育苗	8,374	100	765	100



慣行苗（左）、密播苗（右）

(4) 経営改善のためのステップアップ研修

普及指導センターでは、認定農業者や認定農業者を目指す農業者に、各種研修や簿記記帳指導等を行っています。複式簿記初心者講座、パソコン複式簿記記帳と経営分析や決算処理、法人の会計と税務、農産物のマーケティング、6次産業化（商談会への対応）、消費税や新規就農者等に対応した税務など、経営改善につながるように様々な研修を企画しています。今後取り組んでほしい研修内容がありましたらお知らせください。



複式簿記初心者講座（2日間）



PC 複式簿記記帳・経営分析研修

■2 地域特性に合わせた栽培技術

トマト葉かび病、すすかび病の防除ポイント

阿新地域で発生が多い「葉かび病」、「すすかび病」の時期別の発生状況を調査しました。「葉かび病」の方が「すすかび病」よりも発生時期が早いのが特徴ですが、どちらの病気も梅雨明け以降急激に増加しました。いったん発生するとなかなか治らないので、発生しないように予防防除が必要です。また、同じハウスでも「葉かび病」と「すすかび病」が混在していたり、3ハウス中で2ハウスが「葉かび病」で1ハウスが「すすかび病」というところも見られました。防除のポイントは次のとおりです。

- ・今年発生が多かったハウスでは、資材の消毒を行いましょう。
- ・病斑の見えるはじめる時期は、ハウスにより異なりますが、病気の感染時期は、病斑が見え始める2週間程度前です。
- ・梅雨時期の防除間隔が長くないように、雨の合間に防除しましょう。
- ・病気が発生しても防除は継続しましょう。
- ・同じ農薬の使用をさけ、ローテーション散布をしましょう。

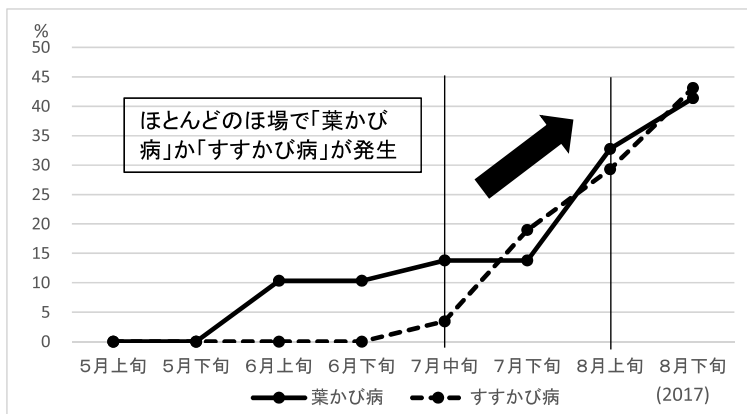


図 「葉かび病」「すすかび病」発生戸数割合

■3 新品種導入による産地活性化

もも新品種「岡山 PEH7号、8号」の実証結果

平成27年度から草間地域で試験栽培を行っている岡山県のオリジナル品種「岡山PEH7号」と「岡山PEH8号」について栽培特性や果実品質を調査しました。

品種の概要

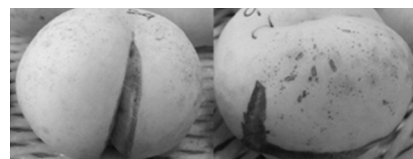
品種名	商標名	来歴	成熟期（新見市）
「岡山PEH7号」	ハクオウ 白皇	「おかやま夢白桃」×「白麗」	8月下旬～9月上旬
「岡山PEH8号」	ハクロ 白露	「清水白桃」の自然交配	9月上旬～中旬



岡山 PEH7号「白皇」

＜岡山PEH7号＞

満開日は4月14日で、「清水白桃」より3日早くなりました。成熟期は「川中島白桃」終了後から「ゴールデンピーチ」出荷前の8月下旬から9月上旬であり、両品種をつなぐ品種として有望と思われました。果実品質は、315gと大玉になり、糖度は18.5度と高く、渋味も無いため食味も良好でした。しかし、裂皮・裂果が多く外観に課題が残りました。

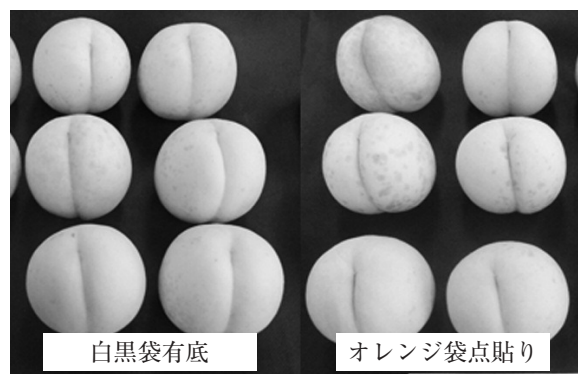


裂皮した果実

＜岡山PEH8号＞

満開日は4月17日で、今年の成熟期は9月上旬でした。

慣行のオレンジ点貼袋では、果皮に緑色が残るため成熟期判断が困難でした。そこで、白黒有底袋と比較したところ、オレンジ袋に比べて白く仕上がるのが判りました。また、果実品質は大玉で400gを超えるものもあり、食味は糖度が高く、渋みも少ないため良好でした。しかし、果皮に汚れが目立ちました。



岡山 PEH8号「白露」

今後、引き続き両品種の栽培特性や適応性について調査するとともに、「岡山PEH7号」の裂皮・裂果、「岡山PEH8号」の汚れの対策について検討していきます。

「岡山 PEH7号」の果実品質（H28、H29）

岡山PEH7号 「白皇」	調査日	果実重 (g)	果実の大きさ(mm)			糖度 (Brix)
			縦径	横径	側径	
H28	8月31日	276	75.1	78.3	81.4	18.1
H29	8月30日	315	77.2	81.2	83.2	18.5

「岡山 PEH8号」の掛け袋の違いによる果実品質（H29年）

岡山PEH8号 「白露」	調査日	果実重 (g)	果実の大きさ(mm)			糖度 (Brix)
			縦径	横径	側径	
オレンジ袋 点貼り	9月8日	330	83.5	82.3	86.2	14.2
白黒袋 有底	9月8日	380	88.7	86.5	89.8	13.5

■4 マーケティング戦略の展開

(1) もものマーケティング活動による産地活性化

8月29日にJA阿新旧草間支所において、「岡山PEH7号（白皇）」の品質評価会を開催し、外観や食味について評価し、果実品質や栽培の特徴について意見交換を行いました。生産者の果実品質に対する評価も高く、部会として栽培を推進することになりました。

次に、今年度初めて加工用モモの出荷に取り組みました。今年度は、白いモモの「清水白桃」と「おかやま夢白桃」の2品種を対象とし、缶詰用とピューレ用に分けて出荷しました。今後は主力の「白鳳」「浅間白桃」を含めて、継続して出荷できるよう支援していきます。

また、10月26日に草間市民センターで「マーケティングの視点による土づくりとこれからの桃づくり」と題し、講演会を開催しました。土づくりの大切さ、桃づくりのすばらしさ、販売のポイントなどについて学びました。参加者からは「カヤによる土づくりなど栽培の特徴を生かしたPRも考えてみたい。」などの意見が聞かれたことから、今後産地のPRや情報発信を支援していきます。



岡山PEH7号の品質評価会



マーケティング研修会

(2) りんどうの販売促進を目指して

阿新地域では、りんどうの販売戦略として、高単価販売が望める物日需要期（8月上旬、9月中旬）出荷に向けた作付けを増やしてきました。しかし、りんどう主産地から物日に安定的に出荷がされるようになったこと、また、気象変動と需要期の短期化により、物日出荷が難しくなったことから、最近では高単価販売が望めなくなっています。

そこで、部会、JA、市役所、普及指導センターが連携して、単価アップを目指し、本年度以下のような取組を行ってきました。

低価格期（7月下旬～8月上旬）の単価底上げを目的に市場、量販店、花加工業者と予約相対取引の強化や新たな販路拡大に向け、小売り業者と意見交換を実施した結果、本年は予約相対取引も増え、新たな販路も拡大し、単価アップにつながりました。また、JAホームページでネット販売を開始したり、盆需要期に合わせた出荷調整試験を実施しました。

さらに、新見は西日本でも最大級のりんどう産地ですが、いまだに市内、県内での認知度は低いいため、新見市役所、新見美術館などでりんどうの展示を行い大変好評でした。また、「敬老の日に新見のりんどうを贈ろう」イベントや県内の量販店で「新見りんどうフェア」を開催、販促グッズ等で、市内外に新見のりんどうの魅力をPRし、需要拡大を図りました。

今後は、単価アップに向けた継続的な取組に加え、更に新たな販路拡大に取組み、販売促進を図っていきます。



新見りんどうフェア

■5 農業者の活動支援

地域農業の活性化を目指して頑張る農業後継者

農業後継者によって組織された新見地方新農業経営者クラブ（会員数39人）の活動を紹介します。

クラブ員の資質向上と地域貢献を目的に、農業や地域の課題を解決するための試験・調査を各支部でクラブ員が協力して行っています。今年は、ピオーネの適正な摘粒数の検討、プール育苗方式での光合成細菌の利用、夏秋イチゴ（岡山STB1号）の収穫期間の拡大、白小豆新品種（岡山ADZ1号）の産地化に取り組んでいます。

課題解決活動のテーマの一つである夏秋イチゴの栽培を学ぶため、広島県庄原市、徳島県東みよし町への研修を行いました。

地域農業活性化のために市長との懇談会を開催しました。クラブから「6次産業化推進や特産品づくりの仕組みづくり」「新規就農者の受入条件の整備手法」などについて提言、要望を行いました。

後継者クラブとしてJ A阿新まつりに出店し、千屋牛肉のバーベキューを販売することで、千屋牛を宣伝しながら祭りを盛り上げました。

今後も普及指導センターは、クラブ活動がより発展するよう支援していきます。



市長との懇談会

■6 その他

（1）第11回全国和牛能力共進会宮城大会

平成29年9月7日～11日に、宮城県仙台市の夢メッセみやぎにおいて第11回全国和牛能力共進会宮城大会が開催されました。

全国和牛能力共進会は、和牛のオリンピックとも呼ばれ、5年に1回開催される和牛の祭典です。今大会では全国から種牛の部で330頭、肉牛の部で183頭が出品され過去最多頭数となりました。

岡山県では平成29年の大会に向けて、平成26年度から指定交配や受精卵移植を開始し、新見市内においても候補牛の確保が進められてきました。

新見市からは1区（若雄）に1頭、7区（総合評価群）の種牛の部に4頭が出品されました。審査競技にも、新見高校から平松秀一さんが出場しました。

岡山県出品団は仙台に向け9月4日に出発しました。出品者は会場でも毎日牛の手入れをし、慣れない場所に戸惑う出品牛たちを丁寧にお世話されていました。現地でも調教の練習を行い、7区において優等9席に選出されました。

次回の全国和牛能力共進会は5年後に鹿児島で開催されます。また新見市からの出品者と出品牛の勇姿を見られるのを楽しみにしています。



7区種牛の部出品者

(2) イチゴのハウスで薪ストーブの効果検証中

新見市いちご研究会（事務局：普及指導センター）は、地域資源として確保が容易な木材を活用した薪ストーブ「ゴロン太」での加温による四季成り性イチゴ「岡山STB1号」の収穫期間延長効果について、神郷高瀬のハウスで昨年の冬から検証しています。

「ゴロン太」は、縦長の投入筒から燃料となる1.2mまでの丸太を入れ、下から徐々に長時間燃焼させます。丸太を割る必要は無く、間伐材などを利用すれば、燃料コストを減らせ、夜間に燃料を追加する手間も省ける利点があります。



薪ストーブ「ゴロン太」

また、「岡山STB1号」は、春から夏、さらに秋と年間を通じて開花・結実する県オリジナルの品種で、夏季冷涼な地域において、6～10月に収穫する夏秋どり栽培に適しています。

イチゴは比較的寒さに強い作物ですが、氷点下に遭遇すると花や果実などに障害が発生します。当地において、寒さはかなり厳しくなりますが、需要が最も高くなる12月までの収穫を目指して、約270㎡のハウス内に「ゴロン太」を設置し、燃焼時間や燃料投入量、外気温やハウス内温度、生育状況や収穫量などを継続して調査しています。

燃料満タン投入下（薪使用量約0.3m³）の燃焼時間は約12時間で、夕方に着火すれば翌朝まで稼働します。現況の内張りの無い一重被覆のハウス内では、図のとおりイチゴの生育の最低温度である5℃以上を確保することができず、厳しい低温条件のため、株はややわい化し、休眠に入り始めたことから、11月から12月までの間に収穫できた果実の収穫量は約120kg/10aでした。また、「ゴロン太」の近くと離れた場所では、1℃以上の差があり、サーモグラフィー画像で確認すると、各所で温度ムラも認められるなど課題がありました。

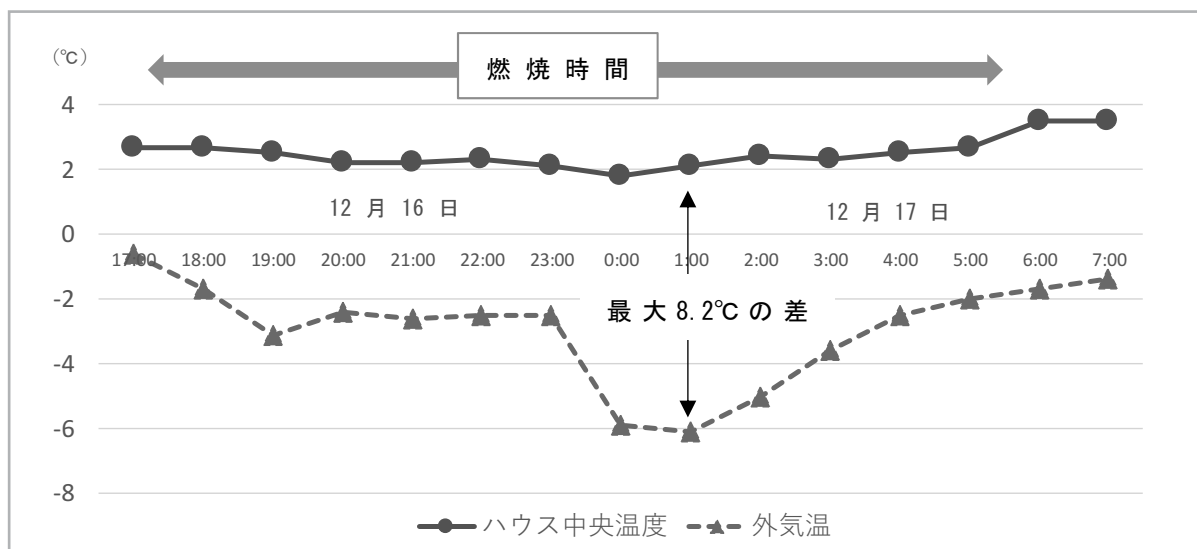


図 「ゴロン太」使用時における温度の推移

「ゴロン太」の有効利用に向けて、今後は、確実な暖房効果が得られるよう適正な施設規模を検討するとともに、循環扇による温度ムラの解消や多層被覆など最低温度の確保対策を実施する予定です。

(3) 新見農業士会が市長と意見交換

新見農業士会（会長：田中邦男、会員11人）は、行政機関への提言、農業の担い手の確保・育成に向けた研修生の受け入れや地域活性化に対する活動・支援等に貢献しています。

今年度は、提言活動の一環として8月8日、池田一二三新見市長を囲んで「新見の農業を語る会」を開催しました。高齢化や社会情勢が急変する中で、年末需要に向けたぶどうの出荷期間の延長やシルバー人材センター・ボランティアの取組の可能性などについて話し合いました。市長は、「新見市は農業が基幹産業である。魅力ある新見市の農業の発展に行政としても本気になって取り組んでいきます。」と語られ、今後とも更に関係機関と連携して新規就農者の確保に向け推進していくことを再確認しました。

今年度は他にも、中国四国地域農業士研究会（11月7～8日）へ参加したり、優良事例調査研究会（12月5日）として、愛媛県上島町岩城島で地域特産物の農産加工と地域活性化への取り組みについて調査しました。



池田新見市長と意見交換

(4) 高校生が考案！新しい米粉スイーツの誕生

普及指導センターでは、地域全体で米粉の需要拡大、食料自給率の向上をめざして、生産者や消費者、商工団体や行政などで組織した「新見市米粉利用促進協議会」（会長：水上真一、事務局：アクティブ哲西）の活動を支援しています。

今年度は、米粉商品の研究について新見高校の協力を得て、米粉デザートを考えてもらい、道の駅レストランのバイキングメニューに加えてもらおうと取り組みました。

11月13日、道の駅「鯉が窪」のレストランのランチバイキングに「米粉チョコチップケーキ」と「米粉パウンドケーキ」のデザートを2名の生徒が試作し、関係者や一般客が試食、アンケートを行いました。試食後、高校生がレシピを説明し、協議会員と意見交換を行いました。「外がサクツとして、中はもちっとしておいしい。」「新見産の旬の食材をいれたら見た目が楽しそう。」「生徒が地域に出て、いろいろな人と話ができて良かった。」などの意見が出ました。

普及指導センターでは今回の結果をまとめ、高校やアクティブ哲西とランチバイキングのデザートとして検討し、より進化したデザートとして提供していけるよう推進していきます。



米粉デザートを考案した高校生

■7 今年輝いた人

(1) 平成 29 年度 岡山県農林漁業功労者表彰

◎岡山県知事賞（農産部門）	多賀 えつ子（神郷高瀬）
〃 （団体指導者部門）	山本 日吉司
◎岡山県農林水産部長賞（農産部門）	中山 正己 （豊永）
〃 （団体指導者部門）	浅井 郁三

(2) 第 11 回 全国和牛能力共進会宮城大会

平成 29 年 9 月 7 日～11 日、宮城県仙台市の夢メッセみやぎで開催されました。全国から種牛の部 330 頭、肉牛の部 183 頭が出品されました。

◎岡山県出品団長	江田 英明
◎1 区若雄 1 等 3 席 新秀矢吹	柴田 武（大佐） （牛所有者：県畜産研究所）
◎7 区総合評価群 種牛の部 優等 9 席	
5 の 4 のさかえたま	江田 英明（哲多）
むねはつひめ 4	宗長 堅吾（土橋）
ながひさふじぎく	有藤 剛（哲多） （牛所有者：阿新農業協同組合 長久牧場）
てったあまつもり	西村 佳明（哲多）
◎和牛審査競技 高校生の部	（牛所有者：（有）哲多和牛牧場） 平松 秀一（新見高校）

(3) 平成 29 年度 岡山県シャインマスカット、マスカット・オブ・アレキサンドリア共進会

平成 29 年 7 月、9 月に作型に合わせて開催され、シャインマスカット 150 点、マスカット・オブ・アレキサンドリア 61 点の出品がありました。J A 阿新からは 18 点(シャインマスカット)の出品がありました。

【シャインマスカットの部】

◎優 秀 賞 うまいくだものづくり推進本部長賞	米谷 信義（豊永）
◎奨 励 賞	河原 咲美（豊永）
〃	家本 弘彦（豊永）

(4) 平成 29 年度 岡山県花き共進会

平成 29 年 7 月 19 日に津山市立文化展示ホールで開催され、切り花 126 点、枝葉 19 点、鉢苗 6 点の出品がありました。J A 阿新からは 16 点（りんどう）の出品がありました。

◎農林水産大臣賞（特別賞）

りんどう（ながの極早生） 奥山 亮（哲多）

◎岡山県農業協同組合中央会長賞

りんどう（パステルベル極早生） 吉岡 波子（菅生）

◎全国農業協同組合連合会岡山県本部運営委員長賞

りんどう（ホワイトベル早生） 妹尾 牧能（熊谷）

(5) 第 72 回 岡山県畜産共進会

平成 29 年 10 月 22 日、真庭市の総合家畜市場で開催されました。県内各地の予選を勝ち抜いた肉用種々牛 51 頭、乳用種牛 79 頭が出品されました。

◎団体優勝

肉用種々牛の部

新見市

◎グランドチャンピオン

若雌区の 3 あいの 2 の 6 の 1

横田 稔（哲西）

◎優等首席

若雌区の 1 よしたま 8 5 の 6

江田 英明（哲多）

繁殖牛群区 あい

あいの 2

あいの 2 の 4

横田 稔（哲西）

◎知事感謝状贈呈

江田 好恵（哲多）

(6) 第 56 回 岡山県枝肉共進会

平成 29 年 12 月 7 日、岡山県営食肉地方卸売市場で開催されました。県内各地から和牛 70 点、肉豚 30 セットが出品されました。

◎第 1 部（和牛去勢の部）

最優秀賞 2 席

J A 阿新千屋肥育センター（千屋）

◎第 2 部（和牛雌の部）

最優秀賞 3 席

峠田 一也（千屋）

最優秀賞 4 席

〃

◎第 3 部（肉豚の部）

最優秀賞首席

岡山 J A 畜産（株）吉備農場（哲多）

(7) 平成 29 年度 新見市ピオーネ共励会

平成 29 年 9 月 21 日に J A 阿新生活センターで開催され、36 点の出品がありました。平均粒重は 19.1 g（最高 22.5 g）、平均糖度は 18.5 度（最高 20.0 度）でした。

◎最優秀賞	岡山県知事賞	福田	昇（豊永）
◎優秀賞	新見市長賞	清原	保（豊永）
〃	岡山県備中県民局農林水産事業部長賞	長嶋	好伸（豊永）
〃	岡山県農業協同組合中央会長賞	浅田	裕基（豊永）
〃	全国農業協同組合連合会岡山県本部長賞	古川	大輔（草間）
〃	岡山県農業共済組合連合会長賞	長濱	健一（草間）

(8) 平成 29 年度 新見市桃共励会

平成 29 年 7 月 21 日に J A 阿新生活センターで開催され、29 点の出品がありました。平均糖度は 13.0 度、最高糖度は 16.8 度でロイヤルの基準糖度を上回ったものが 9 割を占めており、非常に良好でした。

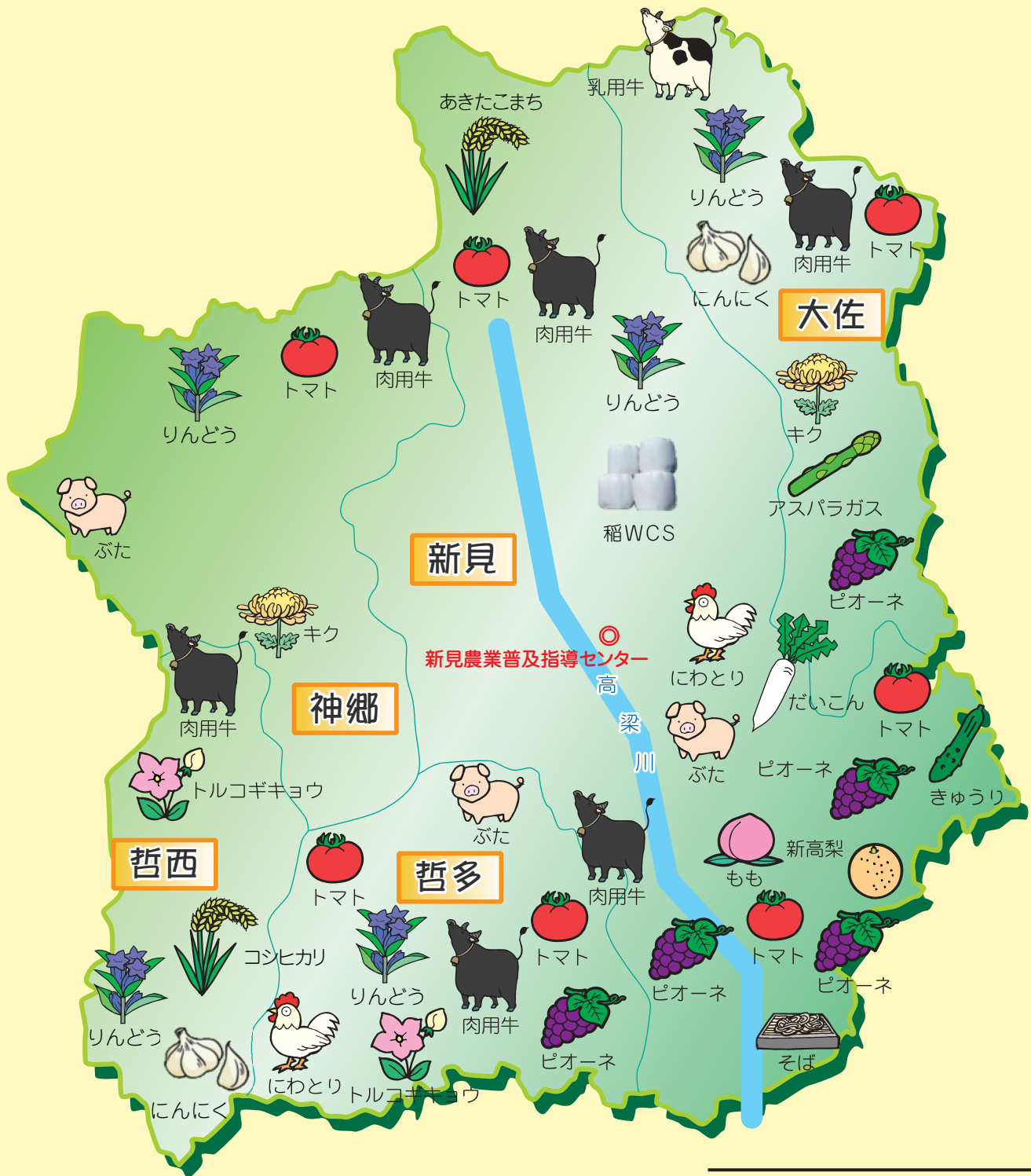
◎最優秀賞	新見市長賞	井上	誠（草間）
◎優秀賞	岡山県備中県民局長賞	林	一雄（草間）
〃	岡山県備中県民局農林水産事業部長賞	堀江	利明（草間）
〃	岡山県農業協同組合中央会長賞	石川	至海（草間）
〃	全国農業協同組合連合会岡山県本部長賞	藤野	和孝（足見）

(9) 平成 29 年度 新見市花卉共進会

平成 29 年 7 月 31 日に J A 阿新生活センターで開催され、31 点（りんどう、きく、トルコギキョウ）の出品がありました。

◎最優秀賞	新見市長賞	おかやま夢りんどう	早生 2 号	夢野花農園	大島	節子（哲西）
◎優秀賞	岡山県備中県民局長賞					
〃	岡山県備中県民局農林水産事業部長賞			しなの早生	吉岡	波子（菅生）
〃	岡山県農業協同組合中央会長賞			ホワイトベル	谷村	悦子（菅生）
〃	全国農業協同組合連合会岡山県本部長賞	おかやま夢りんどう	早生 2 号	田辺	薫明（神郷）	
		小菊				
		おかやま夢りんどう	早生 2 号	妹尾	牧能（熊谷）	
				伊東	政隆（神郷）	

新見市の主な農畜産物

岡山県備中県民局農林水産事業部
新見農業普及指導センター

〒718-8550 岡山県新見市高尾 2400

担い手・農産班 TEL(0867)72-9177

園 芸 班 TEL(0867)72-9179

FAX(0867)72-0495

e-mail:niimi-fukyu@pref.okayama.lg.jp

ホームページ
Facebook

新見農業

検索



ホームページ
QRコード



Facebook
QR コード